

【基本方針】

住み慣れた地域で、生き生きと、その人らしい生活を継続できるよう支援する

【年間目標】

- ①良質なサービスの提供
- ②ご家族との連携
- ③地域との連携
- ④自立支援に向けた取り組み
- ⑤目標稼働率85%を目指す

【実践計画】

- ① 良質なサービスの提供
 - ・認知症の状態に応じた専門的ケアに関しては、触れるケアを大前提とし、スタッフ教育にあたる事で、ご利用者のニーズ（問題行動）の改善が見られたため、今後も継続をしたい。
 - ・適切な接遇対応については、認知症の方の行動を受容する事が困難な場面があり、職員の不用意な言動で、表情が険しくなることがあった。認知症高齢者への接し方の研修を継続し、ニーズの補完に努めたい。
 - ・安全管理に関しては、ご利用者の行動要件を理解する事により、ご利用者のリスク予測を実施できたのではないだろうか。その影響から事故、ヒヤリハット件数が微小を推移させているため、維持していきたい。感染症に関しては、今年度は発生件数が無かった。今後も感染症への注意喚起等を継続したい。
 - ・各設備の点検及び整備に関しては、契約している業者が定期的に点検し、安全管理に努める事が出来た。
 - ・チームケアの実施に関しては、職員間のコミュニケーション不足により共通認識を持っていない状況があったが、年度途中の送りツールの改善、話し合いを行える環境時間を作る事により改善傾向にある。
 - ・サービス支援に関しては、居宅支援計画に沿った介護計画を作成し、実施する事に努めた。サービス担当者会議等には確実に参加出来、外部との連携に努める事ができた。今後は内部との情報共有も絡ませた事項を検討していきたい。
 - ・余暇活動に関しては、屋内にとどまらず、季節感を感じていただくためにも散歩など屋外へ行くことも提供できた。屋内と屋外を有効に活用する事で、一定の認知症周辺症状の改善にもつなげる事ができた。
 - ・職員のスキルアップについては、毎月デイサービスにおいて勉強会を開催し、業務上得る知識以外にも伝える場を提供する事が出来た。今後も認知症に特化した内容と基礎的な介護的概念を組み合わせた研修を実施していきたい。

② ご家族との連携

- ・連絡帳による利用状況の報告は、毎回利用ごとにできていた。ご家族も利用中の状況が分かりやすいとのことだった。今後も引き続き行いたい。尚中核者であるケアマネージャーとの連絡協同を試み、より一層ご利用者の支援内容をこまやかなものと出来るよう努めたい。
- ・行事については、花見や紅葉狩りなど季節感を味わっていただく内容や足湯などへの外出もできたが、ご家族の参加ができなかった。今後はアンケート等を有効活用し、ご本人以外の第三者の参加も促す事を試みたい。

③ 地域との連携

- ・運営推進会議は、開催できなかった。平成 28 年度より必須のため、平成 27 年度中に準備を推し進め、有意義な地域との連携を試みたい。
- ・地域交流や社会資源の活用に関しては実施できなかった。今後資源の調査やボランティア等の導入率を引き上げるように努めたい。
- ・地域ケア会議へは、定期的に管理者が出席した。ふれあいのまちづくり協議会へは定期的な参加ができていなかったため、次年度には参加検討を持ちたい。

④ 自立支援に向けた取り組み

- ・運動に関しては、屋外への散歩を含め、歩行を取り入れることが多くできた。運動と認知症を複合した考え方をもち、各々のご利用者の状態に応じた支援が考案できるよう努めたい。
- ・水分に関しては、小まめに提供している、人によってばらつきがあったが平均 700 ml程度は飲用して頂いている。今後も脱水等認知症を亢進させるような事案には十分注意した対応を継続したい。

⑤ 稼働率に関しては、平成 26 年度は 11.5%。平均利用人数は 1.4 名。

稼働率が伸びなかった原因として下記のことが挙げられる。

- ・ふるさと桜を含め、認知症対応型デイサービスの認知度が低い。
- ・通常デイサービスに比べると、利用単位数が高くなり、利用日数が少なくなってしまうため、地域への認知症の理解及び啓蒙を呼びかけ、認知症デイサービスの必要性或いは、認知症デイサービスを利用する事による効能を具体的に検討したい。
- ・ふるさと桜の認知症対応型のデイサービスとしての実績が乏しく、地域のケアマネージャーへの印象が薄いため、地域のケアマネージャーへの認知症の理解、認知症デイサービスへの理解を深めて頂けるよう、より一層連絡連携を重んじる事ができるよう口頭、文章等ツールを使用しての体制を整備したい。
- ・ご利用者の状況が、在宅生活が限界に近い方が多く、入院や入所になるケースが多いめ、いかに認知症デイサービスの立場を理解し、地域包括ケアを推進できるよう、ご家族及びケアマネージャー、第三者へのアドバイス等を含めた専門性を発揮したい。

平成 27 年度稼働状況

年月	登録者平均	利用者平均	出席率	稼働率	年累計
4	1.73	1.76	100%	14%	1.7
5	1.74	1.70	97%	14%	1.7
6	1.80	2.00	100%	17%	1.8
7	1.80	1.83	100%	15%	1.8
8	2.06	2.32	100%	20%	1.9
9	2.66	2.93	100%	25%	2.0
10	3.48	3.58	100%	31%	2.3
11	3.90	4.10	100%	34%	2.5
12	4.38	4.86	100%	41%	2.7
1	5.28	5.28	100%	40%	3.0
2	5.27	5.13	97%	42%	3.2
3	5.09	4.77	93%	40%	3.3
年間	3.27	3.36	100%	28%	2.3